

校舎等再整備計画の基本的な考え

1. 「本校舎の保存」

歴史的建造物として横浜市指定有形文化財（第1号）の本校舎を保存します。本校舎は1931年に竣工した本学園の象徴的建築物であり、卒業生の「心の故郷」でもあります。改修を行って今後も大切に使用し、活用していきます。

2. 「従来通りの学園生活の継続」

工事期間中も学園生活が従来通り続けられるよう配慮した計画としました。仮設校舎は建てずに、現在の教室を使用しつつ建築を行い、完成したところから移転します。

3. 「キリスト教学校としての歴史・伝統・創立精神の継承」

建築される校舎が、キリスト教学校としての歴史・伝統・創立精神を継承しつつ、新しい横浜共立学園の歴史と伝統を創造していく器として、十分な働きがなされるように考慮しています。

4. 「生徒の成長／変化／自律／学習」

6学年の幅広い学齢に応じた教育環境をもつ校舎として、進級するごとに風景が変わり、生徒の成長に合わせた、変化に富む施設となるようにします。また、低学年での学習のサポート、高学年での自学自習の学習形態にも対応できるようにしています。

5. 「生徒の交流／居場所／やすらぎ／生活」

生徒の交流やふれあいが育まれる場所を計画し、やすらげる居場所をそれぞれが選べるよう、多様な生活空間を用意します。また、木材を多用した校舎や校地の緑化により、やすらぎと潤いのある雰囲気となるよう計画しています。

6. 「防犯／防災／安全安心」

建物や敷地の隅々まで目の届く見通しのよい環境となるよう計画し、防犯性を確保します。また、地震や火災等の災害に備え、建物の耐震、耐火性を高くし、避難経路や緊急車両の進入を考慮した動線を計画して、防災性を確保します。

7. 「すべての人にやさしく、一人ひとりの違いを大切にする」

すべての人が公平かつ快適に利用できるような生活空間となるために、ユニバーサルデザインを取り入れた校舎や環境であるようにします。機能、品質と形態との調和により、だれにもやさしく快適に使える校舎であるよう計画しています。

8. 「環境に配慮した校舎」

新たな未来の校舎像を考え、環境にやさしい、エコ（省エネ）に力を入れた校舎とします。在室者、利用者の快適性を確保した上で、地中熱や雨水の利用等、できる限り環境負荷の少ない校舎となるよう計画しています。

9. 「変化への対応／長寿命な校舎／授業形態の多様化」

長期的な視野に立ち、年月とともに風格や趣を増すような校舎とし、皆に永く愛され、思い出を継承できるようにします。また、将来的な教育の在り方の変化に対応できるよう計画しています。

施工計画

□ 第一期工事

2016年	4月	旧東校舎解体 新校舎建築
2018年	3月	新校舎完成



新校舎完成予想図（イメージ）

□ 第二期工事以降

第一期工事後、本校舎改修、南校舎解体、南校舎跡地（地下）に体育館建築、さらに体育館跡地に礼拝堂建築を予定していますが、工期は未定です。



完成配置図（イメージ）

「校舎等再整備計画（第一期）」工事概要

工事名称	学校法人横浜共立学園 校舎等再整備計画（第一期） （旧東校舎を解体し、新校舎を建築）
施工場所	神奈川県横浜市中区山手町212番地
敷地面積	13959.58 m ²
建築面積	1443.42 m ²
延床面積	6028.14 m ²
建築規模	RC造（一部鉄骨造）地上4階 地下1階
工期	2016年4月15日～2018年3月15日（予定）